

暑中お見舞い
申上げます



猛暑の日が続いておりますが、くれぐれもご自愛くださいますようお願い申し上げます

二〇一八年 盛夏

日本共産党
民報編集部

若者の庄内離れを食い止めよう 庄内若者定着促進会議

「存亡の危機を乗り越えるために」と題し、

「庄内若者定着促進会議」が12日、県庄内総合支庁で開かれました。

若者の庄内離れを食い止めようと、産学官が連携して、「県内就職促進」「大学進学者県内回帰促進」など4つの課題ごとにチームをつくって、効果的な対策を検討することです。

定着率の下降傾向

新規高卒者の県内就職割合（定着率）は、今年4月末で県平均77・8%（前年同期比0.4ポイント減）。

置賜76・7%（同1.2ポイント増）、

村山87・8%（同0.2ポイント増）、

最上67・9%（同0.3

ポイント減）、庄内67・4%（同0.8ポイント減）。

庄内の定着率が最も低く、下降傾向が大きくなっています。

半数以上が県外に

2013～16年度の新規高卒者数は県全体で年平均1万482人で、このうち55%の5731人が県外に転出し、県内での進学・就職は45%の4751人でした。

県外転出は村山52%、置賜53%に対し、最上、庄内はともに60%以上、県平均の55%より高くなっています。

県によると、庄内の15～39歳人口は2015年には約6万人でしたが、2045年には54・6%減の2万70

00人まで落ち込む見通しとのこと。

政治の失敗と「中高一貫校」

若者の庄内離れは、平成大合併による自治体リストラと学校統廃合による「地域衰退」が大きく影響しています。

政治の失敗が大きな要因と言えます。

これに「中高一貫校」の導入が進められれば、さらに心配です。

トップレベルの進学校を「中高一貫校」にすれば、受験競争の低年齢化が激化します。

親の経済格差が教育格差となって顕在化し、非正規雇用にある多くの若者が、いつそ住みにくくなる心配があります。

【絵を描く】

夏野菜と雑草

加藤貞雄（山王町／上平形出身）

屋敷の隅に3坪ほどの畑がある。鋤をもって耕すのも億劫おっくうになってきた歳だが、大好きな夏の野菜の味覚を思うとやっぱり今年も、と腰を上げた。

素人の私は夏野菜の種子を蒔いたり苗を植える時期がよくわからない。ホームセンターなどで早々と苗を店先に並べ始めると気が焦ってくる。

ある種物屋の主人に尋ねると「田んぼに水が入ってからでいい、早まると良く育たない」と教えてくれた。

5月の半ばになって、春菊やほーれん草、小松菜などの種子を欲ばって畝うねひつしりと蒔き、トマトやキウリ、ナスなどの苗も所狭しと並び植えた。

昨秋、公園の落ち葉を拾い集めて腐葉土にして土中に埋めたのが効を奏してか、まあまあまあまあの出来だ。毎朝起きがけに畑に出てその育ちぶりを眺めるのが楽

しみだ。

ところが問題は雑草である。屋敷中が雑草で覆われていて（聞こえはいいが自称「雑草園」）、それが畑の中にはびこってくる。その勢いの速いこと。

腰を曲げて草むしりをするのが辛くて、数日サボッテいると畝うねの中まで侵入してきて、野菜と見分けがつけ難いほどに。その生命力にはあきれ返る。

そうは言うものの、もつとも身近にありながらその名前さえ知らない雑草だが、美しい花を咲かせて人の心を和ませてくれることがある。

暑い最中、草をむしりながら思った。

日本人は縄文時代の昔からこの雑草と闘いながら生きて来たに違いない。「働きバチ」と揶揄やぶされたように、その体の中には雑草と闘うDNAが組み込まれているのだろうか、と勝手に想像した。



中山道テクテク1人旅 24 山里のおばちゃん達

新町 齋藤留治

木曾川を挟んで兩岸にそそり立つ山の頂から、怪しげな雲が駆け下りてきたと思つたら、ピッカゴロゴロドンの音と共に激しい雨となつた。

急いで傾きかけた物置小屋の庇に入り、雨合羽を被つて小走りに避難場所を探していたら、「木曾義仲の里、義仲記念館」の看板があったので、そこで一休みさせてもらおうと歩いた。

途中、「産地直売」施設（名前は忘れた）のようなものがあつたので入口の戸を開けた。開けたら木曾のおばちゃん達7、8人が、畳の上でお茶を手に何やら楽しそうに話してんでいた。

お客さんが珍しいのか一斉に私を見ていたが、やがて「アンちゃ、（とは複雑な気持ち）どっから来たのか」と

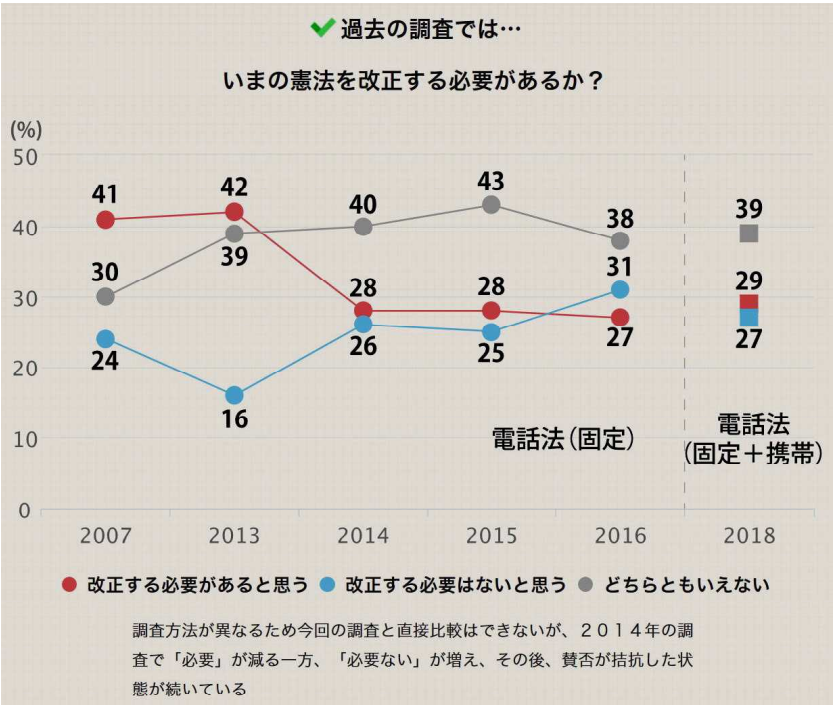
こんなおばちゃん達を「うるさい、このクソばばー」と罵る者がいるらしい。

先日ある新聞で次のような投稿を目にした。投稿の概要は、「スパーでゆつくりカートを押す高齢の男性が居た。後ろから若い男2人が近づいてきて、じいさん、邪魔、どけクソじい。あまりの酷さに私（投稿者）が注意をしたら返つてきた言葉はクソばばー」だ。

私が滞在したカナダやオーストラリアではこんな光景を見た事が無かつたし、大抵「お先にどうぞ」とニコニコ顔で待つてくれた（私はスパーの買い物物の金勘定に不慣れの為）。株高を演出し北朝鮮で国民を煽つて政権維持。こんな政治で人の心も貧しくなつていくのかな！。

日本人と憲法 NHK世論調査から考える③ 改憲賛否の変動

―あらためて憲法を学ぶ 青山崇



憲法改正の賛、否の調査である。

過去の調査と今回の調査では、調査方法（固定電話法から、+携帯）が異なるため今回の調査と直接比較はできないと断つたうえで、2013年・2014年調査と2018年調査を上げている。

13年は、賛成42%、反対16%が、14年は、賛成28%、反対26%と、賛成が減る一方で、反対が16%から26%へと増えている。

そして、16年は、賛

成27%、反対31%。18年は、賛成29%、反対27%と賛否が拮抗した状況である。

賛成の理由は、「時代に合わない」54%がトップで、「国の自衛権や自衛隊の存在を明確にすべきだから」が32%で、「アメリカに押しつけられた憲法だから」はわずか5%である。

これに対し、反対の理由は「戦争の放棄を定めた憲法9条を守りたいから」が64%とダントツで、以下「憲法改正より優先して取り

組むべき課題があるから」17%、「すでに国民の中に定着しているから」10%、「アジア各国などの国際関係を損なうから」4%と続くが、いずれも平和と関わっており、国の自衛権と自衛隊の動向と平和を守ることが対になって国民の意識がうめいている。

改正必要が減少傾向にあるのは、執拗な政府・与党の改憲運動に対し、9条を守る会など憲法を守る運動の成果であろう。



夏を乗り切ろう

雨にも負けず 風にも負けず 夏の暑さにも負けぬ 丈夫な体をもち・・・とは、宮沢賢治の有名な一節だが、この夏は命に係わる大変な温度だぜ。しぼらくは、この高温に負けないように逃げて回らねばならないネ。

▲原因については、学者や気象関係者にお任せにすることも、私たちが救急車のお世話にならないように気を付けたいところ。

▲しかし、雑草は丈夫だ。豆の葉などがチリチリしてきてもナンテことがない。俺は夏の暑さには負けないが、夏の草には負けアンベだ。隣接する畑の方には迷惑を掛けてるカモ。

▲ひと雨降るとその元気のよいこと。特に気になるのが一面のスベランシヨだ。まさに輸出できる程の多さだぜ。

そんなにもあるものだから、道の駅などで売っているように乾燥して冬に食べる保存食にしていたものだ。少し酸味があつて、俺は嫌いではなかつたな。

▲これを夏に食い始めたのは何時頃からだったかはつきりしないが、少しの酸味と少しのヌルメキがある。トロロ芋など、ヌルメキがある物は体に良いというから、これもそうだろう位に思っている。茹でて辛子醤油を付けるだけだから、一度挑戦してみたいかがかな。

▲時間が掛るが、蕨たたきはヌルヌルして美味しいのは皆さんご存知の通りだが、こっちは時間が掛らないからたいていみてはどうか。

▲パンケに始まりモチグサ・カンソウ・消毒前の柿の葉・ブナの葉などの天麩羅は、自然の恵みだ。変な物の恵み・知っている人は教えてよ。ナ。(石川)